

女性への暴力ゼロ運動 特別講座

若年女性の今(リアル)～夜の公園に居場所を求めて～

令和4年11月26日(土) 13:30～16:00 ムーブ5階 小セミナールーム



【講師】筑紫女学園大学 准教授 **大西 良**さん(写真右)
小倉北警察署 生活安全課 防犯係 **片岡 卓也**さん(写真左)

今回は、4年ほど前から福岡市や北九州市などの公園で夜回り(アウトリーチ)の活動をされている大西さんから、夜の公園に集まる10代、20代の女性たちのさまざまな実情を話していただきました。泊まるところを確保するため男性に付いて行き、その後自傷行為をしてしまう女性もいます。自傷行為は、親や周囲の大人に対する「助けてのメッセージ、SOS」なのだそうです。生きづらさを抱えた子ども・若者が、大人(社会)を信じていることができる、排除されない社会づくりが必要と学びました。

小倉北警察署の片岡さんからは、福岡県の性被害の現状と対策についてお話をしていただきました。福岡県は、性犯罪多発地域だそうです。被害に遭わないためには「スマホを見ながら歩かない」「帰宅したら必ず施錠する」「自宅やその周辺など行動圏を特定される情報がないか確認してSNSに写真を投稿する」など、具体的な防犯対策を教えてくださいました。



パープル・ライトアップを実施

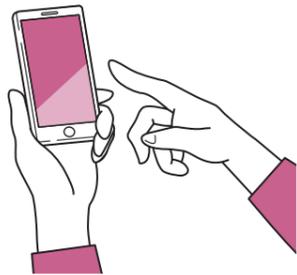
令和4年11月12日(土)～25日(金)

女性に対する暴力根絶のシンボルであるパープルリボンにちなみ、上記期間にムーブが入居する北九州市大手町ビルを紫色にライトアップしました。



性暴力をなくそう。「若年層の性暴力被害予防月間」

あなたが望まない・同意のない性的な行為や発言は、どんな理由や相手でもすべて性暴力です。10代・20代に対する性暴力の手口が巧妙になっています。毎年入学・進学時期などで新生活を迎える人の多い4月を「若年層の性暴力被害予防月間」として、広報・啓発を集中的に実施しています。「被害にあっているかも。」と思ったら、ひとりで悩まずご相談ください。



あなたは悪くありません。ひとりで悩まずご相談ください。

性暴力被害者支援センター・ふくおか ☎092-409-8100 (24時間・365日対応)

お知らせ

「KFAW ランチャイムトーク」イベント開催

アジア女性交流・研究フォーラムは、JICA海外協力隊経験者にお話いただくオンラインイベントを開催します。赴任したトンガ王国の文化や暮らしの様子、活動のエピソード、現地を感じたジェンダー問題などをランチタイムに楽しくリポートいただきます!

ぜひ、お昼休みのひとときにちょっと耳を傾けてみませんか? ご参加お待ちしております!

- ◆日時 3月15日(水) 12:10～12:40 ◆オンライン(Zoom) ◆定員 100名 ◆参加費 無料
- ◆出演 JICA海外協力隊経験者 内野 里香さん ◆申込締切 3月10日(金)

詳細はイベントページをご覧ください。(http://www.kfaw.or.jp/event/lunchtimetalk2022-3.html)

お申込み・お問い合わせ (公財)アジア女性交流・研究フォーラム(KFAW) 企画広報課
TEL : 093-583-3434 E-mail : info@kfaw.or.jp

お知らせ



▲お申込みフォーム

第5回 北九州地域のさまざまな分野でご活躍中の皆さまをエッセイでご紹介します。

リレーエッセイ ムーブと私

賢く食べて 健康で長生き!



北九州市食生活改善推進員協議会 会長
おばた ゆきこ
小畑 由紀子さん

Profile
平成6年入会、平成30年から現職。戸畑区ボランティア連絡協議会会長、戸畑警察署協議会会長、戸畑区女性団体連絡協議会副会長なども務め、他団体との連携で健康づくりの輪、そして活動の場が広がっている。平成26年 厚生労働大臣表彰。令和2年春 緑綬褒章受章。

北九州市食生活改善推進員協議会は、「私達の健康は私達の手で」をスローガンに子どもから高齢者まで、生涯における健康づくり活動と食育活動を、食を通して地域で推進しているボランティア団体です。健康づくりの担い手となる食生活改善推進員は愛称で「ヘルスマイト」と呼ばれています。昭和47年に発足し、昨年50周年を迎えました。

事業の一つには「ふれあい昼食交流会」があります。一人暮らしや夫婦のみの世帯の高齢者に、食事を通じたふれあいのひとときを提供することを目的に実施しており、今年30周年を迎えます。このような活動が評価され、平成15年に権威ある「保健文化賞」を受賞し、翌年北九州市で高円宮妃殿下のご臨席のもと全国食生活改善大会を開催しました。

私は、食事療養が必要な病人が家族に出ることがきっかけで、「食生活改善推進員養成教室」を受講、修了後会員になり

28年になります。その間、主治医から呼び出しがあり「長年患者を診察しているが、食事で改善されたのはたった3人です」とお褒めの言葉と医学書をいただき活動に自信が持て、多くの仲間と一緒に楽しく活動が続けられていることが私の健康の源になっています。

ムーブとの関わりは、オープン当初からバランスのとれた食事と減塩を推進・啓発する「ヘルシーバイキング」、「おやこの食育教室」、「やさしい在宅介護食教室」、「男性のための料理教室」等を継続して開催しています。また、ムーブ喫茶でスタッフとして関わっています。

令和2年から続くコロナ禍で、より健康、そして食生活への関心が高まっている今だからこそ、地域住民に寄り添った食育と健康づくり・地域づくりの二刀流で活動を続け、次世代へつなげたいと思っています。

第16回「北九州市女性活躍・ワークライフバランス表彰」受賞者決定!



本市では、男女がともに活躍できる環境づくりに積極的にチャレンジする企業・団体を表彰し、その取組内容を広く市民・企業の皆さまに紹介しています。この度、第16回の表彰企業を下記のとおり決定し、表彰式を行いました。

各受賞者の詳細は、HP「はじめよう!ワーク・ライフ・バランス」をご覧ください。
(http://wlb-kitakyushu.jp/commendation/)



市長賞 福祉介護事業
株式会社ケアリング北九州支店

社員の働く目的を尊重した柔軟な工夫。お互い様の精神で誇りを持って働き続けられる環境に。



市長賞 冠婚葬祭業
株式会社サニーライフ

年中無休24時間営業の冠婚葬祭業でワーク・ライフ・バランスを踏まえた働き方を。社員の声に耳を傾ける姿勢が、会社を強くする。



奨励賞 金属精錬業
株式会社西日本メタル

変化する時代に対応していけるよう社内風土を変革。女性のネットワーク拡大でコミュニケーション活性化。



お問い合わせ 北九州市総務局女性活躍推進課 TEL : 093-582-2209

私たちが声を上げるとき アメリカを変えた10の問い

2020年の全米オープンテニスにおいて、大坂なおみ選手が警察官に殺された黒人の名前がプリントされたマスクをつけて登場し、7試合を戦い抜いて優勝したことは記憶に新しい。大坂は、犠牲者の名前が入ったマスクによって、無言の「声」を上げたのだった。

ブラック・ライブズ・マター（BLM）運動や#MeToo運動など、近年のアメリカ合衆国では差別や不正義に抗う動きが次々と生まれている。全世界に広がるこれらの動きの原点には、勇気ある女性たちがいた。本書は、「声を上げる」ことでアメリカ社会を変え、歴史を動かした10人を取り上げ、何が起きたのか、背景や意義も含め分析したものである。

「声」には、大坂のような無言の声もあれば、2018年にフロリダの高校で起きた銃乱射事件の生存者エマ・ゴンザレスの演説における6分20秒間の「沈黙」もある。また、弁護士時代のルース・バイダー・ギンズバーグが、女性を劣位に置くことを当然視していた1978年当時の男性の連邦最高裁判事に対して、発言せずに「飲み込んだ声」もある。彼女は、感じた怒りを公の場で表さず、冷静な法の論理に徹することで司法府の憲法解釈を覆していった。

本書は5人の女性アメリカ史研究者により著されたが、外国で起きた他人事としてではなく、今の世界に生きる者として当事者意識をもってこれらの声に耳を傾けてほしいとの思いから、タイトルは「私たち」とされている。文章は平易で分かりやすく、読書会や討論に用いたい本である。

北九州市立大学 外国語学部 教授 **北 美幸**さん



- 和泉 真澄、坂下 史子、土屋 和代、三牧 聖子、吉原 真里 著
- 集英社
- 2022年初版
- 1,000円(税別)

インターセクショナリティ(交差性)

差別や抑圧は交差しているという考え方で、人種、階級、ジェンダー、セクシュアリティ、国籍、障害、エスニシティ、年齢などのさまざまなカテゴリーを相互に関係し形成し合うものとして捉える概念。例えば黒人女性が声を上げようとすると、性差別と人種差別が足し算ではなく掛け算として作用し、「被害者ぶっている」、「ヒステリックである」などの「怒れる黒人女性」のステレオタイプと相まって、発言そのものが葬り去られがちになる。

新しい労働世界とジェンダー平等

以前から知られている通り、日本の「ジェンダー・ギャップ指数（GGI）」（世界経済フォーラム）は、146か国中116位（2022年）。先進国中最下位であるどころか、東アジア・太平洋地域でも最下位である。日本は、なぜこんなにジェンダー格差が大きいのか。なぜ国際的にみて女性の地位がこんなにも低いのか。

仕事・雇用は、政治分野と並び、日本のジェンダー格差の大きい分野である。本書は、仕事・雇用の分野について、歴史的経緯も含めて、日本の大きな男女格差をよく理解できる本である。さらにいえば、国連専門機関である国際労働機関（ILO）が掲げる世界目標、ディーセント・ワーク（人間らしい、働きがいのある仕事）の日本の課題を、労働法とジェンダー法の大家である、浅倉むつ子さんが、分かりやすく解説している。

ポストコロナの新しい仕事の世界では、「仕事」上のジェンダー平等だけでなく、「生活」時間も取り戻すこと。2030年までの地球目標—持続可能な開発目標（SDGs）では、家事、育児、介護など女性が多く担っている無償労働の評価やこれら労働の男女の分担などを求めている。最後に、「日本のジェンダー平等を国際基準に」とのアピールは、納得で、大賛成。ハラスメントは「差別」との考え方を広め、特に日本で女性の人権確保を進める必要があることを再認識させる良書である。

（財）アジア女性交流・研究フォーラム 理事長 **堀内 光子**



- 浅倉 むつ子 著
- かがわ出版
- 2022年初版
- 1,700円(税別)

ハラスメント

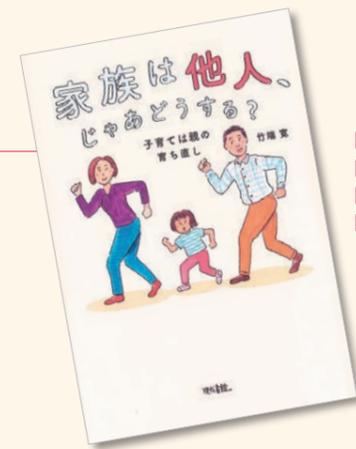
ハラスメントは、働く場で世界的に深刻な課題。日本では、セクシュアル、マタニティ、ケア、パワー4類型を法規制しているが、事業主の措置義務にとどまり、禁止規定はない。国際労働機関（ILO）では、2019年「仕事の世界における暴力及びハラスメントの撤廃に関する条約」が成立し、就職希望者、雇用終了者、ボランティアなど、通常の労働者より幅広く対象にし、包摂的、総合的で、ジェンダーに対応した取り組み方法を採用するよう求めている。

家族は他人、じゃあどうする？ 子育ては親の育ち直し

本書は、男性研究者として社会に適応してきた著者が戦略的に「ケアの論理」を価値あるものとして提起する研究の書である。子育てに向き合う著者は、上から「正解」を注入する方法が通用しないことに直面し、相手に寄り添い共に折り合うことに重点を置いた母性的でケアに基づく思考と生活スタイルに切り替えざるを得なくなる。これは、世間の男性的な働き方を中心とした視点からは「戦線離脱」とみなされる。だがケアの視点からは、人間や社会がまさにここから広がっていく現場そのものなのである。ケアの論理への転換は、子育てにとどまらず、親子関係、夫婦関係、仕事へ向き合うことなどあらゆる社会的なシーンにおいても豊かな転換をもたらしたことが実体験をもとに語られている。

さらに本書は、通常の多くの研究書とは異なり、著者自身の個人的な内実や過程を見つめることから始める。この個人的な葛藤に寄り添い言葉にすることこそが、ケアの論理における「政治」の実践なのである。著者の家庭や夫婦関係におけるこれまでの事情、それぞれの個性など具体的なエピソードは、時間と空間を超えて「私たち」の物語になっていく。この本を読んだ者は「馬車馬の論理」と「ケアの論理」に引き裂かれる自身のモヤモヤにも気づき、それを言葉にする勇気をもらうことだろう。このような叙述や問題提起もまたケアの論理を実践していくことであると竹端さんから学ばせていただいた。

大阪大学 人間科学研究科 招へい研究員 **元橋 利恵**さん



- 竹端 寛 著
- 現代書館
- 2022年初版
- 1,800円(税別)

ケアの論理

職場で「有用になる」、「稼げる」といった経済的な合理性や生産性を第一とみなす「馬車馬の論理」に対して、生きていくために他者を必要とする人（子ども、お年寄り、障害のある人など）に寄り添い、必要を満たし、人間関係を調整・維持することを第一とする論理。ケアに関わる活動は従来女性の役割とみなされ重要視されてこなかったが、本書では、ケアの論理はすべての人にとって重要な指針となることが問題提起されている。

育休夫婦の幸せシフト制育児

NPO法人ファザーリング・ジャパン九州 理事 **高橋 建二**さん

題名を読んで「シフト制育児？」とまず思う人も多いと思うが、本書を読むと「なるほどね、確かに」と膝を打つ内容になっている。これから子どもが生まれる予定の夫婦はもちろん、もう子どもがいる家庭は今すぐにでも読むべき本だ。それくらいインパクトがあり、読み終わると本書の内容が腑に落ちる。

この本を読んだ私が一番伝えたいことは、普段仕事で当たり前に行っていることを育児に落とし込むことで育児のある程度のことは解決するということだ。それは、仕事のチームのように、夫婦が協力して育児というプロジェクトをやっていくことだとも言える。そのための3つのポイントは、シフト制、カイゼン※、コミュニケーションである。まずシフト制とは、1日24時間の中で夫婦が交互に子守を担当する仕組みのことである。それによって効率よく無理しすぎず育児ができる。次に、カイゼン（TOYOTAで有名な、あのカイゼン）であるが、シフト制を作って運用していく中で、問題点があれば知恵を出し合って改善していくことでより幸せで快適な育児ができるように仕組み化する。その際に



- 芳田 みかん 著
- オーバーラップ
- 2022年初版
- 1,100円(税別)

良いツール（今回であれば育児アプリ）があれば、導入していくのも手である。最後はコミュニケーションだが、チーム（夫婦）の状態や気持ちを常に共有することで良いコミュニケーションが生まれ、お互いがお互いをカバーすることでチームが活性化する。

シフト制育児には、仕事のエッセンスがふんだんに詰まっており、夫婦と子どもがwinwinwinであるべき状態はどこかを考えた結果として一つの新しいやり方になるのは間違いない。

※カイゼン…日本の製造業で誕生した考え方であり、業務の内容やプロセスを見直すことで作業の無駄をなくし業務を効率化すること。



令和5年度おすすめ講座紹介

いまだきママのリフレッシュ講座

家事、育児、仕事…毎日忙しくがんばっているママに送る「自分時間」。
託児サービスも完備!暮らしを彩るワークショップを楽しみながら、ここで出会う
ママ友と子育てのこと、仕事のことなどを語りながらリフレッシュしませんか?

- 日時 5月9日(火)、23日(火)、6月6日(火)、20日(火) (全4回) 10:00~12:30
- 定員 12名(抽選) ■ 受講料 3,500円(材料費・保険料込)
- 対象 妊娠中~小学3年生までの子どもがいる母親
- 託児 有(6ヵ月~就学前まで)※要予約(1人1回500円)

申込締切
4月14日(金)



働く女性に贈る! お役立ちワンポイントセミナー

毎回異なるテーマで働く女性に役立つ講座を開催します。お気軽にご参加ください。

こころも輝く! キャリアアップ&ビューティー講座

毎日をもっと楽しく、輝くために! 新年度のスタートにピッタリの講座です。

- 日時 4月8日(土)、22日(土) (全2回) 13:30~16:00
- 定員 20名(先着順) ■ 受講料 1,000円
- 対象 働いている女性、またはこれから働きたいと思っている女性
- 託児 有(6ヵ月~就学前まで)※要予約(1人1回500円)

大好評!
募集中

ストレスケアの処方箋

新しい環境で疲れやストレスを感じやすい時期に。自分に合ったストレスケアの
方法を身に付けて生き生きと自分らしく過ごしましょう!

- 日時 5月12日(金)、19日(金)、26日(金) (全3回) 19:00~20:30
- 定員 20名(先着順) ■ 受講料 2,000円程度
- 対象 働いている女性、またはこれから働きたいと思っている女性
- 託児 無

4月6日(木)から
受付開始

お申込み・お問合わせ 事業課 TEL: 093-288-6262 FAX: 093-583-5107

啓発冊子発行案内 令和5年3月末発行予定

産休・育休取得者だけの問題じゃない!

パパの子育て応援NAVI (無料配布)

育児・介護休業法の改正を受けて、男性の育休が柔軟に取得しやすくなりました! 本冊子では、
改正ポイントや取得方法などを分かりやすく解説。市内企業で働く男性の体験談も掲載していま
す。男性の育休取得を通して、誰もが自分らしく働ける社会を一緒に目指しませんか?



北九州市立
男女共同参画センター

ムーブ

〒803-0814 北九州市小倉北区大手町11番4号
TEL: 093-583-3939 FAX: 093-583-5107
E-mail: move@move-kitakyu.jp
HP: https://www.kitakyu-move.jp/

公益社団法人
アジア女性交流・研究フォーラム
KITAKYUSHU FORUM ON ASIAN WOMEN

北九州市立男女共同参画センター・ムーブの指定管理者



ムーブHP



Facebook



Instagram

ア
ク
セ
ス

●JR西小倉駅から徒歩15分

●西鉄バス「ソレイユホール・ムーブ前」下車

【小倉駅バスセンターから】27 36 45 110 138

【小倉駅入口から】150 170 175 197

【天神バスセンターから】西鉄高速バス いとうづ号

●北九州市都市高速 勝山ランプ・大手町ランプ出口から約3分

地下駐車場 100台収容(車高制限は2.1m)

30分ごとに100円 8:15~22:15(入庫は22:00まで)



ムーブのFacebook・Instagramでイベント案内をはじめ、
いろいろな情報を発信しています。